

2024 年度 評価結果報告書



調布市立多摩川小学校学童クラブ

(学童クラブ)

株式会社日本生活介護

評価推進機構への報告

1. 福祉サービス第三者評価結果報告書
2. 事業プロフィール
3. 利用者調査 p1~3
4. 組織マネジメント p5~13
5. サービス分析 p15~24
6. 事業者が特に力を入れている取り組み p25
7. 全体の評価講評 p26

評価推進機構への報告



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)基本的な生活習慣を身につけ、自分で考え行動する 2)集団生活の中で社会性を身につける 3)育成を通して様々なことを感じ、考え、それを自己表現する 4)安全・安心な学童クラブ運営 5)施設間の連携 6)中期経営計画の取り組み推進</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりを大切に、安全・安心・快適に過ごすことができるよう、常に改善の意識を持ち、利用者から選ばれる施設運営を目指します。「利用者から選ばれる」東京かたばみ会 ・働く人一人ひとりが心に余裕をもち、働きやすい職場となるよう業務改善を進め、仲間を大切にする法人運営を目指します。「みんなが助け合う」東京かたばみ会 ・働く人一人ひとりの力を伸ばし、挑戦意欲を発揮できる職場となるよう、人材の育成・定着を図ります。「みんなが助け合う」東京かたばみ会 ・やがて土から芽を出し、きれいな花が咲くように、この5年間でしっかりと経営基盤の基礎を固め、持続可能な法人経営を目指します。「しっかり根を張る」東京かたばみ会 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の目線で考え実践できる職員になる。 ・確かな時代認識の上になたって新たな課題に道筋をつけ、責任を持って実行できる職員になる。 ・既存の習慣にとらわれることなく常に幅広い視点から柔軟に改革できる職員になる。 ・福祉の心を念頭にコスト意識をもって行動できる職員になる。

調査対象

登録児童全員とその保護者を対象とした。

調査方法

学童クラブからアンケート用紙を配布し、記入後は返信用封筒に入れ、直接評価機関へ返送していただくか、学童クラブに設置した回収BOXに投函し、学童クラブからまとめて評価機関へ返送していただくこととした。

利用者総数

77

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
77	0	77
49	0	49
63.6	0.0	63.6

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

調査対象者77名のうち、49名から回答を得ることができた。

満足度の高い項目として、「おやつ時間が楽しいひとときになっているか」「学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか」「職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか」「職員の接遇・態度は適切か」などがあげられる。

総合的な満足度では、49名全員が「大変満足、満足」と回答している。

また、「夏休みも飽きがこないようにいろいろな企画をしてくれたおかげで毎日通えました」「楽しいことも嫌なこともあるけど学童クラブは楽しいから好き」「友達と遊べるのが楽しい。もっといろいろな子と交流したい」「冬は集団降雪中で家の近くまで見届けてくれるので安心です」「おやつを量を増やしてほしい」などのコメントがあがっている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか	43	2	0	4
43名が「はい」、2名が「どちらともいえない」と回答している。 また、「友達と遊べて楽しいです」「ドッチビー大会や日頃の活動が楽しいです」「サッカーとか皆と協力して遊んだりできます」「一人になっても先生が遊んでくれるから楽しい」「外遊びができて楽しい」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	40	6	0	3
40名が「はい」、6名が「どちらともいえない」と回答している。 また、「先生が優しいから過ごしやすい」「嫌なことがあったら先生にすぐ相談しています」「優しく話をちゃんと聞いてくれます」「話したいときに忙しそうで声をかけられない」などのコメントがあがっている。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	43	4	1	1
43名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。 また、「友達と一緒に食べられるから楽しい」「いろいろなおやつが出るからいつも楽しめる」「おやつを選べるのが楽しい」などのコメントがあがっている。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	22	4	0	23
22名が「はい」、4名が「どちらともいえない」と回答している。 また、「皆違うことをやりたいとなったときは、先生がうまくまとめてくれます」「考えを優しく聞いてくれます」「自分の意見を言ったことがあります」などのコメントがあがっている。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	42	1	0	6
42名が「はい」、1名が「どちらともいえない」と回答している。 また、「人が傷つくから暴力は振るわない、怪我をしたりさせたりすると危ないから廊下を走らない、とわかりやすく教えてくれた」「いつも詳しくわかりやすく言ってくれます」「毎月目標を貼り出して伝えてくれます」「大きい声で話してくれるから良くわかりました」などのコメントがあがっている。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	17	15	13	4
17名が「はい」、15名が「どちらともいえない」、13名が「いいえ」と回答している。 また、「皆で片付けをしています」「片付いているときと片付いていないときがあります」「先生は片付けてくれるけど、皆はごちゃごちゃにして全然片付けません」「毎日先生がいろんな子に、片付けてと言ってます」などのコメントがあがっている。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	42	1	0	6
42名が「はい」、1名が「どちらともいえない」と回答している。 また、「先生は皆優しい」「名前を呼ぶとき呼び捨てにしないし、丁寧に話してくれます」などのコメントがあがっている。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	41	2	0	6
41名が「はい」、2名が「どちらともいえない」と回答している。 また、「ちゃんと助けてくれるから安心できます」「ボールが当たって痛かったときに手当してくれた」「具合が悪くなったらお母さんを呼んでくれます」などのコメントがあがっている。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	37	4	0	8
37名が「はい」、4名が「どちらともいえない」と回答している。 また、「ケンカになったときは話を聞いてくれる」「いつも助けてくれる」「トラブルになりかけたときに間に入ってくれた」「友達に謝るとき助けてもらった」「先生はしっかり者だから助けてくれると思う」などのコメントがあがっている。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	38	1	0	10
38名が「はい」、1名が「どちらともいえない」と回答している。 また、「いつも話を聞いてくれる」「先生みんな大切にしてくれていると思う」「先生がどう思っているのかわからない」などのコメントがあがっている。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	28	2	0	19
28名が「はい」、2名が「どちらともいえない」と回答している。 また、「先生たちは人の秘密を皆に話したりしないと思う」「秘密にしたいことは特にない」などのコメントがあがっている。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	36	1	0	12
36名が「はい」、1名が「どちらともいえない」と回答している。 また、「先生に話したことはないけど、きっとやってくれる」「お友達に嫌なことをされたとき助けてもらった」「すぐに対応してくれている」などのコメントがあがっている。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	17	3	5	24
17名が「はい」、3名が「どちらともいえない」、5名が「いいえ」と回答している。 また、「困ったことはありません」「質問が難しい」などのコメントがあがっている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	法人の基本理念や児童部門の基本方針を理解する機会を複数設けている 法人の単年度事業計画では、児童部門の基本方針や育成目標、運営の方向性を詳細に示している。この計画は各施設に配布されるとともに、理念については事業所マニュアルにも掲載し、職員が常に意識できるよう工夫している。また、新任職員には採用時の研修で理念や基本方針を学ぶ機会を設け、さらに年に2回の全体会議を通じて、その理解を深め、意識を共有している。施設内では、育成室に基本方針を掲示し、これを基に毎月の目標を設定。子どもたちにも分かりやすく伝えながら、日々の活動の指針としている。	
	各会議体を設け、決定事項等の周知の流れを整理して、共通認識を進めている 法人では、「安全・安心な学童クラブ運営」を重点事項として掲げ、リスクマネジメントへの取り組みと、子どもの権利擁護に向けた方針を定めている。これを実現するため、法人主導のもと定期的に施設長会議を開催し、計画の進捗状況を確認するとともに、各施設が抱える課題の解決に向けた議論を行っている。また、各施設の職員会議で挙がった意見や提案は、施設長会議において検討され、現場の状況理解を深めながら、共通の対策を講じることで、サービスの標準化や安全対策の向上につなげている。	
	職員全体で集まる機会を設け、円滑な事業運営に向けて取り組んでいる 学童クラブ全体会は、全正規職員を対象とし、各施設の職員が顔を合わせる場として開催されている。この会では、年度の業務における重点項目を共有するとともに、共通認識を深め、職員間のコミュニケーションを促進することで、協力関係の構築を目指している。また、年度の中頃には2回目の全体会を実施し、遊びをテーマに据えた交流の場を設けている。この会では、職員同士がチームを組み、交流試合などを通じて親睦を深めるとともに、子どもへの遊びの指導力やコミュニケーション能力の向上を図っている。	

カテゴリー2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>子どもや保護者、地域のニーズを常に把握した方針の決定をしている</p> <p>定期的な利用者アンケートを実施し、その結果を分析することで、子どもや保護者のニーズを的確に把握している。特に、学童クラブの利用ニーズが高まる中で、保育園や幼稚園との連携を強化し、途切れのない子育て支援の実現を目指している。また、市の事業者連絡会や学童クラブあり方検討委員会への参加を通じて、国・都・市の児童健全育成の方向性を踏まえながら、法人としての方針を定めている。さらに、この法人の方針に基づき、放課後児童部門の中期経営計画を策定し、職員全体で各業務を検討しながら、計画の達成に向けた取り組みを進めている。</p> <p>中期計画から各事業所の事業計画の重点項目が設定されている</p> <p>法人の中期経営計画では、「各施設における子どものケガの発生を最小限に抑え、安全安心な管理運営に努める」を重要なテーマとして掲げている。これを受け、単年度事業計画の学童クラブ全体の重点事項では「安全・安心な学童クラブ運営」「施設間の連携」「中期経営計画の取り組み推進」を定め、具体的な行動を示している。また、事業所の重点事項として「家庭や学校、その他の関係機関と連携し、職員間で差異のない質の高い支援を実施すること」、「積極的な情報発信と地域交流イベントを通じた保護者との信頼関係の構築」することとしている。</p> <p>法人の計画が職員に深く認知されており、各事業への理解が十分に進んでいる</p> <p>今回実施した職員自己評価の結果から、法人の中期経営計画や事業所の単年度計画に対する職員の理解度が深いことが明らかになった。これは、学童クラブ全体において、放課後児童部門の方針や事業所の重点事項を定期的に周知・確認していることが要因と考えられる。一方で、経営層は有期契約職員やパートタイマー職員に対しても、事業所における中期経営計画の取り組みについて理解を深めてもらいたいと考えている。今後はこれらの方針を統一的に周知する機会を設け、職員全体で共通認識を持ち、目標達成に向けて取り組んでいく方針である。</p>		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリー3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2

地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

日常的に子どもや保護者の意見や要望を聞き取り、苦情に至らない対応を心掛けている

経営層は、年2回の苦情解決第三者委員会議において、法人内の各事業に寄せられた苦情の内容、解決までの経緯、改善策を報告し、職員全体に周知を行っている。これまで放課後児童部門における苦情の実績はないが、他部門での事例を通じて、解決までの経緯を理解し、事前の防止策を講じることは、質の高いサービス提供において重要な取り組みと位置付けている。また、苦情の対象は子どもや保護者に限らず、地域からの意見も想定し、市の担当課と情報共有や解決に向けた取り組みを確認している。

定期的な権利擁護に向けた意識付けの取り組みが継続的に行われている

毎年12月の人権週間に合わせて、法人独自に作成した「子どもの人権擁護のためのセルフチェックシート」を各学童クラブ職員全員に実施し、その結果を統計として取りまとめている。このチェックシートは、日常業務や特定の場面での職員の行動を問う内容となっている。その結果は、各施設の会議や学童クラブ全体会において報告され、権利擁護意識の向上や啓発に活用されている。さらに、市の担当課からは、都や市で実施される権利擁護に関する研修の情報が提供されており、放課後児童部門からの指示や職員の希望に応じて、受講が進められている。

地域社会とのつながりを子どもと一緒に経験し、未来の地域社会の形成に寄与している

法人は、市内に7つの学童クラブを運営している強みを活かし、各地域の特性を深く理解しながら連携体制の強化に努めている。市の健全育成推進地区委員会や地区協議会などと連携し、地域の行事(お祭りや運動会等)への参加や協力を行っている。特に、法人単位での出店や活動を子どもたちと一緒にを行うことを通じて、地域社会とのつながりを深め、将来的な地域のコミュニティ形成を目指している。また、コロナ禍によって地域社会のつながりが薄れたことを踏まえ、今後は地域との継続的な関わりをより一層重視して取り組んでいく方針を持っている。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>市内の感染状況を十分に把握した上での、各施設の対策と注意喚起を行っている</p> <p>法人の事業計画において、「安全・安心な学童クラブ運営」を目標として掲げ、具体的な取り組みとして事故・ケガの防止、感染症予防対策、および避難訓練の実施を定めている。事故防止については、各学童クラブで発生したインシデントリポートを集約し、場所や時間帯などを分析。これにより、活動時の場所の設定や見守り体制の見直しなど、改善策に反映させている。また、市内の感染状況を常に把握し、流行期には注意喚起を各施設に連絡し、事前に対策を行うことで感染症の予防に努めている。</p> <p>施設の立地に応じた災害時の計画と体制が整備されている</p> <p>子どもの支援時間に応じた学校との災害時の連携体制を図るため、協定が結ばれている。年間で避難訓練を6回実施し、加えて業務アプリを活用したテストメール配信や災害伝言ダイヤルの使用訓練を毎月行っている。また、建物内の放課後児童教室との連携を強化し、さまざまな災害訓練を共同で実施している。さらに、事業継続計画(BCP)における職員の役割について、非常勤職員には特定の役割を設けず、法人のバックアップのもとで行動することが定められている。</p> <p>電子データの安全管理について、今後は更に取り組んでいきたいとしている</p> <p>市の指導のもと、個人情報の取り扱いや管理方法が徹底されており、定期的な実地検査を受けて運用状況の確認が行われている。法人の規定に基づき、電子データや記録媒体の管理も厳密に行われている。例えば、子どもの写真データはオフラインPCで取り扱い、配信用データに加工する手順が定められており、安全な管理体制が整備されている。また、アプリを通じた情報発信において、二次転用等のネットリテラシー対策に関して、市全体での取り組みが進められることを期待している。</p>		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリー2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

3/3

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に
取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリー5の講評

適切な職員配置における支援体制を確立し、各施設の特色を生かした活動をしている

市内の学童クラブ利用のニーズ増加を受け、法人では正規職員の採用を積極的に行っており、これは学童クラブや児童館、保育園などの児童部門の拡充に向けて、次世代の事業の担い手を育成することを目的としている。人員配置は支援単位に応じて適切に行われ、その活動内容に関しては施設長と職員が協力し、方針を定めている。この方針を踏まえた事業所の特色として、子どもの遊びや創作意欲を大切に、日々の活動を通して生き生きとした放課後の支援が行われている。

法人の方針や職員の意向を踏まえた研修受講を進めている

法人では、正規職員の勤続年数に応じた段階的な研修受講を計画的に進めており、子どもの育成支援に必要な研修については、正規・非常勤を問わず、職員会議などで共に実施し、知識を深めている。これまでの所内研修では、事故防止や緊急時対応を重視し、積極的に実施してきた経緯がある。また、現場からは、障害や要支援児童へのコミュニケーションや具体的な支援事例を通して学びを深めたいとの意見もあがっており、今後の研修に生かす予定である。

職員間の交流を通して、組織力の強化やサービスの標準化を図っている

年2回行われる学童クラブ全体会では、1回目に事業の目標・方針の確認や研修、重点事項の確認を行い、職員間での認識を統一している。2回目は、各施設の職員間のコミュニケーションの活性化や、育成支援の技術を共有し、楽しみながら行える場として開催している。この取り組みを通して、法人の運営する学童クラブでの業務やサービスの標準化を図り、異動等があった際にも迅速に組織形成が行える体制を整えている。これらの活動を継続的に実施することで、法人の児童部門が共通認識を持って事業を運営できるよう努めている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

法人の中期計画にある4つの柱の実現にむけた事業評価を適正に行うこと。

【取り組み】

外部コンサルタントを活用しながら、四半期ごとの見直しの際に進捗管理を行った。

【取り組みの結果】

A・B・Cの三段階評価により、進捗状況を明確にし、適正な事業評価と課題の抽出を行うことが出来た。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

学童クラブの委託を受けた法人は、市の基準を遵守しつつ、法人独自の取り組みを盛り込んだ4つの柱による中期経営計画を立案し、魅力ある学童クラブの運営を目指している。その柱は、地域に根ざしたサービスの質の向上、人材の確保・育成・定着、業務の効率化・運営の標準化、新拠点の業務委託を円滑に行うという4つの目標で構成されている。各項目については、外部コンサルタントの助言を受けて、具体策を設定し、学童クラブが設置されている各地域に応じた単年度計画を作成している。また、計画の進捗状況や達成度については、四半期ごとに確認と見直しを行い、必要に応じて修正を加えている。各目標に対しては、年次評価を3段階で定め、評価基準はA(計画以上に進捗が確認できた)、B(概ね計画通り)、C(進捗が遅れが見られ、改善が必要)となっており、次年度に向けた課題抽出を行っている。これらのプロセスを通じて、目標達成に向けた手順が整理され、実行に移されている。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

安全・安心な学童クラブを実現するための事故防止対策を徹底する。

【取り組み】

各学童クラブのヒヤリハット・事故報告の内容を分析し、各種マニュアルの改訂とその内容の周知を行う。

【取り組みの結果】

児童引き渡しの手順の整理がされたことによる適正な子どもの引き渡しが改善された事、受診につながる事故等の各施設の目標値を設定し、計7施設中6施設が目標を達成した。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

事業計画において、各施設の重点事項を明確にし、法人の目標である「安全・安心な学童クラブ」の実現に向けて取り組んでいる。特に、受診につながる事故防止と、児童引き渡し時の間違いをなくすことを目標に掲げている。事故防止に関しては、事故やヒヤリハット報告の内容を精査・分析し、その対策を全施設に周知した。また、適正な児童の引き渡しに関しては、使用アプリの使い方や手順を整理し、マニュアルの改訂と職員への周知を行った。この取り組みによって、事故報告や受診に繋がる事故発生件数は減少した。この取り組みは次年度も継続し、発生要因やその対応をさらに精査し、より安全な環境の提供と職員の育成支援に反映させていくこととしている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>学童クラブの情報はウェブ、説明会、アプリを通じ、保護者に詳細に提供されている</p> <p>市や法人のホームページでは、一年を通じて学童クラブに関する情報が提供されている。入会予定の保護者に対しては、入会説明会を実施し、担当課が作成した「学童クラブ案内」や施設が作成した「入会のしおり」を用いて詳細な説明を行っている。また、スライドショーを上映して、児童の日々の活動を分かりやすく伝えている。説明会に参加できない保護者には、別日に対応することで、すべての保護者が情報を入手できるよう配慮している。入会後は、アプリを活用し、日常のお知らせやアンケート、児童の出欠席などのやり取りを行っている。</p> <p>学童クラブの掲示物にふりがなとイラストを使用し、会議やおたよりで情報提供している</p> <p>施設内の子ども向けの掲示物にはふりがなをつけて理解しやすくし、またイラストを取り入れることで子どもが興味を持つよう工夫している。施設の入口にお知らせを掲示してお迎えの保護者が見ることができるようにしている。毎月発行されるおたよりは、担当課にも送付され、情報提供が行われている。市内の民間事業者の学童クラブ施設長会議および法人内での施設長会議がそれぞれ月1回行われるほか、年2回開催される地域の児童館運営会議で施設の状況を伝える機会があり、市内および近隣の施設や団体に情報が提供されている。</p> <p>子どもや保護者の問い合わせや見学希望に柔軟に対応し、情報提供を行っている</p> <p>学童クラブでは子どもや保護者からの問い合わせや見学希望があった場合、個別の状況に応じて対応している。入会申請前には問い合わせや見学希望が集中しているため、随時対応を行い、要望や必要に応じて面談等の機会も設けている。また、在籍児童の保護者には普段の子どもたちの様子を見て理解を深めてもらうため、自由参観日を設けている。自由参観日の設定については、保護者が参加しやすいよう、期間を設けたり、学校の参観日に合わせるなどの配慮を行っている。保護者や子どものニーズに応じて柔軟かつ丁寧に対応し、情報提供を行っている。</p>		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	8/8
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている		○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>入会説明会、保護者会、入会後の子どものサポートで、ルール等を詳細に説明している 学童クラブの基本的ルールや重要事項等については、新規入会児童の保護者全員に入会説明会で説明している。新しく入会した子どもに対しては、生活の仕方や施設の使い方について理解してもらうために、利用開始から2週間程度、場面が変わる際に前もって説明する時間を設けるほか、帰りの会で説明をしている。年度当初と夏休み前には保護者会を開催し、必要事項や生活等を説明している。保護者の意向や質疑応答の内容は報告書に記載し、適切に対応している。子どもや保護者がサービスを円滑に利用できるよう、詳細な説明と柔軟な対応を心掛けている。</p> <p>入会前面談と保育園での情報共有を基に、子どもの不安を軽減して支援を実行している 学童クラブではサービス利用前の生活を踏まえた支援を行うために、入会前の面談や保育園での聞き取り、訪問見学で得た子どもの様子をもとに、職員全体で情報を共有して子どもの育成に役立てている。班分けにおいては、保育園が同じ児童や交友関係を考慮し、登室に不安を抱く子どもに対しては、入会当初に保護者の付き添いを依頼し、子どもの不安解消を図っている。校庭での外遊びでは、1年生については遊べる場所や遊具を制限しながら子どもの状況を把握し、徐々に範囲を広げていくことで、子どもが安心して安全に過ごせる環境を整えている。</p> <p>障害のある子どもに環境整備と個別配慮、サービス終了時に生活の連続性を支援している 障害のある子どもや配慮が必要な子どもにはクールダウンの部屋や必要な環境整備を行っている。ロッカーの位置や班の席を子どもに応じて配慮している。エビベンを使う子どもにはすぐに取り出せるようロッカー近くに席を設けている。騒がしい環境が苦手な子どもには隅の席を用意し気持ちを切り替えやすくしている。職員は子どもの近くにいるように補助できるよう努めている。サービス終了時には、児童館や放課後子供教室「あそびバ」の案内を子どもや保護者に提供し、別の学童クラブに移る際には情報提供を行い、生活の連続性を保つ支援を行っている。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	10/10
3	個別状況の記録と計画策定		
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		評点(0000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している		○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している		○非該当
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している		○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している		○非該当
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている		○非該当
サブカテゴリ-3の講評			
<p>前年度に立てた育成支援の目標と計画を保護者に周知し、状況に応じて毎月見直している</p> <p>前年度中に育成支援の目標や計画を立て、年度当初の保護者会で説明している。毎月行っている職員ミーティングで、子どもたちの様子に応じて生活の目標・遊びの目標や育成計画の見直しをしている。生活の目標・遊びの目標については、おたよりや室内掲示で保護者や子どもに周知している。障害のある子どもに対しては、日々の職員間での情報共有をふまえて職員ミーティングで個別的な課題等の確認を行い、次月の育成目標を立てている。保護者にはお迎え時に伝え、場合によっては親子面談を実施して保護者の意向を確認したうえで見直しをしている。</p> <p>育成日誌、ミーティングノートに記録して職員共有し、報告書を市に提出している</p> <p>学童クラブでは、毎日育成終了時にその日の様子を育成日誌に記載している。朝礼時には前日の子どもの様子を職員間で詳細に話し合い、怪我や病気、ヒヤリハット、家庭環境、保護者からの連絡・相談等をミーティングノートに記録して育成に活かしている。ミーティングノートは職員が必ず確認し、チェックを入れている。援助の内容は育成日誌や月ごとにまとめて育成状況報告書に記載している。障害のある子どもや気になる子どもについては、出席した日の様子を障害児日誌や配慮児日誌に記載している。日誌や報告書は月ごとにまとめて市に提出している。</p> <p>育成目標を掲示し、情報共有や研修報告で子どもの状況把握に努め、育成に活かしている</p> <p>学童クラブでは、法人の育成目標および学童クラブの育成目標を室内に掲示し、職員全員がいつでも確認できるようにしている。朝のミーティング記録は午後から出勤する職員も確認することになっており、全員で情報を共有できる体制が整っている。また、市主催の研修以外にも研修参加の機会が設定されており、研修で得た専門的な知識や情報は「研修報告」として他の職員と共有し、職員の子どもへの理解を深めるために役立てられている。学童クラブでは、職員間で子どもの状況に関する情報を効果的に共有し、日々の育成に活かす体制が確立されている。</p>			

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	○非該当	
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
<p>市や法人のマニュアルに基づき、保護者の同意を得て個人情報を適切に扱っている</p> <p>学童クラブでは、市のマニュアルや法人の個人情報保護マニュアルに基づいた対応を徹底している。市では学童クラブの利用にあたって「調布市立学童クラブ利用申請書」で、個人情報の取扱いについて、申請内容の確認のための調査及び児童の安全な育成のために利用することに、保護者の同意を求めている。さらに学童クラブでは、写真使用について入会説明会で説明し、「個人情報の取扱いについての同意」文書を配布し、同意書を通じて保護者の意思を確認している。同意を得た児童の写真のみを使用している。</p> <p>子どものプライバシーに配慮しながら援助を行い、安心できる環境を提供している</p> <p>学童クラブでは、子どものプライバシーに配慮して援助を行っている。具体的には、子どもの名札は外部で使用せず、プライベートな質問は避けている。水遊びの着替えは男女別の部屋で行い、職員も肌の露出を控え、Tシャツの着用を心がけている。プライベートゾーンについては、子どもが理解できる内容で話をする機会を設け、日々状況に応じて繰り返し説明している。職員は日常的に子どもとの距離の取り方に配慮し、必要以上に近づきすぎないように注意している。このように、学童クラブではプライバシー保護を徹底し、安心できる環境を提供している。</p> <p>子どもと保護者の意見や価値観を尊重し、適切な対応を行い子どもの権利を擁護している</p> <p>学童クラブでは、子どもと保護者の意見や価値観を否定せず、まず同調して理解するよう努めている。子どもの声に耳を傾け、考えを拾い上げ、得手不得手を理解して無理強いせずに促すような声掛けを行っている。保護者とはお迎え時や参観日に話することで意思の確認ができるよう努めている。トラブル発生の際には、当該児童から話を聞き、解決に導くよう努めている。また、日々の声掛けを通じて、暴力やいじめがいけないことを子どもたちに学ばせている。いじめに関しては必要に応じて学校と連携・情報共有して対応し、予防・再発防止に努めている。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>市と法人による各種マニュアルを活用し、職員が日々の業務で必要な事項を確認している</p> <p>市が作成している学童クラブマニュアルや各種マニュアルに加え、法人で作成された業務マニュアル、緊急時対応マニュアル、アレルギーマニュアル、個人情報取扱い保護に関するマニュアル、事故対応マニュアル等が整備されている。これらのマニュアルには日々の育成活動で必要となる事項や手順が詳細に記載されており、職員はわからないことが起きた際に活用することができている。マニュアルは職員全員がすぐに確認できるよう事務室に保管されている。日々のミーティング、毎月の職員ミーティングで業務の振り返りを行う際にも活用している。</p> <p>学童クラブは、職員や保護者・子どもの意見を反映し、業務の改善を図っている</p> <p>市が年1回実施する学童クラブ利用者アンケート調査に基づき、学童クラブでは振り返りと反省を行い、次年度計画に反映させるよう努めている。職員は日常的に連絡用アプリや迎え時の会話を通じて、保護者が気軽に相談や要望を伝えられる環境を整えている。職員は子どもの日常的な話にも耳を傾け、その意向をくみ取る努力をしている。行事はその都度振り返りを行い、子どもや保護者の意見を取り入れて見直しに役立っている。ヒヤリハットやアクシデントシート内容及び職員ミーティングの意見を法人の施設長会議で提案・検討するしくみがある。</p> <p>より良いサービスを提供するために職員マニュアル改定の時期や基準の設定が期待される</p> <p>学童クラブでは、毎日のミーティングや月1回の職員ミーティングで、子どもや保護者の状況、事業の実施状況を振り返り、業務の確認と点検を行っている。課題や提案事項は、毎月開催される法人の施設長会議で提出する仕組みが整っている。また、法人では、保護者連絡アプリと児童引き渡し時の対応、アクシデントシートやヒヤリハット報告の検証を踏まえて、安全な育成環境を整備するため、職員マニュアルの改定を実施している。これを法人施設長会議で共有し、全職員に周知している。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ4	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
			29 / 29
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(0000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>子ども一人ひとりの情報や日々の状況を職員間で共有し、援助の方法を考えている</p> <p>入会申請時に提出された児童状況書を確認し、1年生は保育園から聞き取りを行い、その後は学校と情報交換を行っている。ミーティングでは子どもの様子を職員間で共有し、障害のある児童や配慮が必要な児童も含め気になる児童については、日々記録し援助の方法を話し合っている。児童一人ひとりの発達の状況は様々であり、個々の性格等を考慮して対応している。例えば、言い方がきつ子の子の対応についても職員間で援助の仕方を共有している。一人ひとりの好みや個性を把握し、理解し尊重しながら育成を行っている。</p> <p>おやつの時間や行事における班活動を通し、思いやりを持ち行動できるよう支援している</p> <p>1、2年生が多い集団ではあるが、1年生は児童状況書に記載された成育歴や保護者の記入した長所、短所、保育園の情報などを参考にし、2年生以上の子どもは1年生の時から状況を見て、職員が班メンバーを決め、班活動を行っている。6人程度の人数で和気藹々とした雰囲気の中でおやつを食べ、班ごとに順番でおやつ当番や帰りの会などの進行を行い、誕生会の集団ゲームなどを協力して行っている。ゲーム内容はそれぞれの個性や得意なことを発揮できるように設定し、協力し合い、お互いに思いやりをもって行動できるよう支援している。</p> <p>子ども同士のけんかなどの際には、それぞれの気持ちを受け止め支援している</p> <p>遊びや活動中には小さなトラブルも発生するが、子どもたちにはけんかになる前に職員に相談するよう日頃から伝えており、話し合いで解決できるよう援助している。言葉にする前に手が出る子どもには特に配慮し対応している。実際にけんかが起きた場合、その場にいた職員が事務室や別室で子どもたちの声に耳を傾け、落ち着けるよう支援する。一人ひとりの話をよく聞いて両者で話し合い、振り返りができるように促している。また、女子特有のトラブルには経験豊富な非常勤職員も対応し、スムーズな関係づくりを支援している。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>年齢に応じた自分がやりたい遊びを自由にできるよう玩具や場所の設定をしている</p> <p>おやつや帰りの会など全員が参加する必要がある時間や、誕生会などの行事がある時以外は、子ども自身でやりたい遊びを選択し、自由に遊べるよう配慮している。年齢に応じた遊びができるように玩具を用意し、危険が伴う遊び以外は子どもの意見を尊重している。玩具は使いやすさを考慮して棚に収納し、細かいパーツがある玩具はジッパー袋などに入れて片づけやすく配置している。ゆったりと過ごしたい時のためにマットを敷いた読書スペースを設け、夏休みには日陰での水遊びなど季節を感じる遊びの時間を設けている。</p> <p>職員は、自分の意見や作品を表現する場を作り、良いところを認めることを意識している</p> <p>当番制で帰りの会の司会を行い、楽しかったことを発表する時間を設けており、積極的に意見を出し合っている。毎月、貼ってほしいと希望する子どもの絵を壁に掲示し、子どもの自己表現の場を設定している。また、職員はマイナス面を指摘するのではなく、様々な場面で認め、誉めることを意識している。このことにより、子どもたちの自己肯定感が高まり、良い行動が増え、少しずつ全体が落ち着いていくことに繋がっている。集団活動に主体的に参加するのが難しい子どもには、意思を尊重し、個別に対応している。</p> <p>基本的な生活の流れやルールを伝え、集団生活がスムーズに送れるよう援助している</p> <p>新年度当初には、登室時のあいさつ、登室確認カードの提出、ランドセルなどの荷物を指定場所に置くこと、手洗い・うがいなど、一連の流れが理解できるように細かく指導している。ホワイトボードに毎日のタイムスケジュールを記載し、帰宅時間の情報を名前カードで掲示して、自分で確認して行動できるよう促している。また、集団生活の中で友達との関わりにおいて、その場にふさわしいあいさつや言葉遣いができるよう促し、事故やけがを防ぎ安全に過ごすためのルールを守ることや、困ったことがあれば職員に伝えることを教えている。</p>			

3	評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している	評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもたちの状況を考慮し、楽しく意欲的に行事に参加できる支援内容を工夫している</p> <p>行事を企画する際、職員は過去の実施状況を振り返り、その時点での子どもたちの様子を確認して素案を作成する。日常の遊びや経験、流行から出る子どもたちの意見を取り入れ、一緒に準備を進めることで、子どもたちの参加意識が高まり、自ら進んで準備に取り組む姿勢が生まれる。例えば、市が実施するサッカーやドッジビーの大会に参加を希望する子どもたちは、最初は職員がルールなどを伝えるが、その後は子どもたちが主体となって取り組めるよう支援することで、ゲームの作戦を話し合い、練習する場面が見られるようになっている。</p> <p>1年のまとめとして年度末には子どもたちが主体的に関わる行事を実施している</p> <p>日常生活の中で行事を経験しているものの、子どもたちが企画を出し合って作り上げる場面は少ない。しかし、年度末に行う「進級を祝う会」では、子どもたちが企画から携わる機会を多く設けている。壁面に掲示したアンケートシートに各自がやりたい出し物を記入し、その意見を尊重して内容を決めて積極的に練習を進める。子どもたちは、支援を受けつつ出し物の発表に向けた準備をし、プログラムを決め、司会進行も子どもたちが行う。子どもたちはこの過程で達成感を感じ、1年間の活動のまとめとして充実した時間を過ごしている。</p> <p>子どもたちの行事参加意欲を高めるため、保護者に取り組み状況を伝え協力依頼している</p> <p>保護者会で年間行事を説明し、毎月のおたよりやアプリ、お迎え時の会話を通じて、子どもたちの取り組み状況を保護者に伝えている。その結果、家庭でも話題となり、子どもの興味や参加意欲が増すよう工夫している。家庭で用意してもらう必要がある場合には、保護者に協力を依頼することもある。市のスポーツ大会参加児の保護者には、実施会場までの送迎や応援を依頼している。各行事終了後には、当日の様子を文章や写真でおたよりに記載し、お迎え時に見られるよう写真を入れたファイルを玄関に提示して保護者と共有している。</p>		
4	評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている	評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもが楽しく居心地の良いと感じ通い続けられるように援助している</p> <p>入会当初の緊張した状態から、子どもたちが楽しく居心地が良いと感じられる場所になるよう支援している。保育園からの情報や個人記録を確認し、一人ひとりの状況を把握し、個性を尊重した多様な遊びを提供している。子どもの変化を意識して援助し、相談しやすい雰囲気作りにも努めている。通うのが嫌な様子が見受けられる時には、子どもの気持ちに寄り添い、職員で情報共有し環境改善を図りつつ対応を検討し、保護者とも協力している。毎日通う子どもたちが継続的に楽しめるような玩具や遊びの工夫も行っている。</p> <p>子どもたちが安心して活動できるよう室内の環境設定に配慮している</p> <p>本や漫画を読むための場所として本棚前にマットを敷き、宿題やお絵かきの机と玩具遊びの机を分けるなど、活動に応じた環境を整えている。17時以降や土曜日など人数が少ない時には、少し動きのあるような遊びの種類を増やす工夫もしている。誕生表や季節に合わせた掲示をし、子どもたちが描いた絵を掲示する期間も設けている。また、体調が悪い時や気持ちを落ち着かせたい時に使えるクールダウンの部屋も用意し、空調の温度調整や危険箇所、玩具の破損の点検をするなど、快適で安全な室内環境を作るための配慮をしている。</p> <p>放課後子供教室職員と連携し、子どもたちが楽しく交流できるよう援助している</p> <p>建物の上下階で放課後子供教室と一体型施設運営をしている。毎月定期的に子どもの情報共有や合同事業の企画について打ち合わせを行い、毎日スケジュールの確認をしている。年4回、工作、映画会、サッカー大会、ドッジビー大会などの合同事業を実施し、幅広い学年の児童が参加して異年齢で交流する有意義な時間を過ごしている。施設内にポスターを掲示し、職員からも口頭で伝え合同事業の参加を募り、その情報をおたよりや連絡アプリで保護者にも伝えることで放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいよう援助している。</p>		

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当

評価項目5の講評

学校との良好な関係で、日常的に情報交換、情報共有を行い支援に活かしている

学校との関係を良好に保ち、子どもたちの様子に気になる点があれば学校側に相談し、学童クラブの情報も共有している。また、学校の連絡アプリを使用して年間行事予定やおたよりなどの情報を得ており、子どもたちの学校生活の様子を把握している。体育館や校庭の使用についてはルールを定め、急な対応が必要な時は電話で連絡を取っている。子どもたちが教室に忘れ物をした場合には、クラス担任が気軽に訪れてくれるので情報交換も行っている。さらに、校門には安全管理のシルバースタッフが常駐しており、帰宅時の見守りをしている。

課題を抱える家庭について、関係機関と連携しながら子どもに寄り添い支援している

感染症の流行により、職員が学校行事に参加する機会が減少しているが、不登校や課題を抱える家庭に関する状況が発生した場合には、密に情報共有する仕組みがある。状況に応じて公的な関係機関とも連携する環境を整えており、実際に、入学前から子ども家庭支援センターが関わっているケースについて連絡があり、情報を共有している。また、児童相談所からも定期的に子どもの様子について確認の電話がある。職員間でも情報共有を行い、子どもの様子を見守り、気持ちに寄り添いながら支援し、その状況を個別の記録に残している。

配慮が必要なケースについては、学校以外の各種関係機関とも連携し対応している

在籍している配慮が必要な子どものケースには、保育園の時から子ども家庭支援センターや児童相談所が関わっているものがあり、子どもの問題だけでなく家庭の課題も抱えているため、学校だけでなくこれらの機関と情報共有を続けながら連携を図っている。一方の病気による配慮が必要なケースについては、医療機関の診断書を基に、学校と連携して共通の対応を行っている。また、気になる子どもの支援については、市の巡回相談を実施し、子どもの様子を見てもらいアドバイスを受けながら、より良い援助が提供できるように努めている。

6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りで配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当

評価項目6の講評

子どもたちがおやつを楽しみにし、落ち着いた時間を過ごせるよう支援している

在籍人数が多いため、主に注文し宅配が可能な業者から購入している。6人程度の班ごとにテーブルに着席し、3つの籠からそれぞれ好きなものを選ぶバイキング形式で配布している。衛生面を考慮して個別包装のおやつを提供している。異年齢の子どもたちが楽しく会話しながらおやつを食べている。甘いものと甘くないものをバランスよく出し、通常は袋菓子と麦茶を用意しているが、人気のゼリーやヨーグルト、アイスなどを提供することもある。誕生会の時は子どもたちの希望を取り入れ、いつもより少し豪華なおやつを提供している。

全員でおやつを食べられる時間に設定し、カロリーなどを考慮したおやつを提供している

1、2年生が中心の在籍児童のため、先にトイレや手洗いを済ませて着席を始め、3年生が登室する3時30分頃におやつを提供しており、夕食に影響しない時間設定で行っている。市の学童クラブマニュアルに表記されているカロリーの目安を基にバランスを工夫して提供している。また、職員はマナーを守って食べることや、無理に口に詰め込むことがないように見守り、子どもたちの体調を把握する時間にもしている。提供したおやつは「おやつ献立表」に記録し、保護者向けにはおたよりの中でおやつの様子などを発信している。

アレルギーのある子どもについては状況に応じて十分な配慮をし対応している

市のアレルギーマニュアルに基づき、アレルギーのある子どもについて保護者と面談し、対応方法を文書で確認している。現在、持ち込みと除去の子どもが在籍しており、提供の際には複数の職員がアレルギー物質を確認し、別皿で提供している。おやつの中には職員が見守り、十分な配慮をしている。アレルギーについては他の子どもたちにも注意事項を伝え、誕生会では、保護者に連絡を取り、アレルギーのある子どもも同じメニューを楽しめる機会を設けている。また、職員全員が市のアレルギー研修を受け、対応について学んでいる。

7	<p>評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>状況に応じた配慮を行い、病気やけがを防止するための子どもたちの気づきを促している</p> <p>登室時や外遊びから戻った時には、必ず手洗い・うがいを促している。室内では工作の際のハサミの使用を職員が管理し、基本的に机上遊びを行うよう促している。校庭での遊びでは、けがをしやすい子どもには準備体操を促し、放課後子供教室に参加する高学年の子どもたちも多いため、スタッフと連携して遊びの種類によって校庭の使用を分ける対応をしている。また、新年度初めや運動会前には特に体調を把握し、遊ぶ時間や内容を制限することもある。1、2年生が多く、体調を意識できないことも多いため、複数の職員が見守り声掛けを行っている。</p> <p>健康やけがが防止などを意識し生活できるよう、日常生活の中や健康講座などで伝えている</p> <p>施設の内外や帰宅時の交通安全を含め、子どもたちが病気やけがの防止を意識できるよう、帰りの会など全体が集まる時間に日常的に伝えている。危険な場所や注意を必要とする場所には掲示をし、注意を促している。また、イベントとして市の健康推進課保健師による健康講座を実施し、身近な話題を通じて子どもたちの健康意識を高めている。マニュアルに基づき、火事、地震、水害などの避難訓練を実施し、子どもも職員もその流れを意識する機会を持っている。なお、法人では事故件数を抑える目標値を設定し、各施設に安全指導を行っている。</p> <p>医療的ケアが必要な子どもについて専門機関との連携の仕組みができています</p> <p>医療的ケアが必要な子どもについては、入会時に保護者との面談を行い、医療機関からの指示書を受け取る。その内容は学校の養護教諭とも共有し、必要な支援や対応方法を確認している。また、日常的に学校でのけがの経過観察や、学童クラブでの大きなけがが起きた際の報告を行い、養護教諭と連携して対応している。受診が必要なけがや事故が起きた場合は手順に沿って保護者に連絡し、必要に応じて職員が同行する。医療機関の連絡先や救急対応についてわかりやすく掲示し、職員で共有している。</p>		
8	<p>評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>子育てや就労などの事情に配慮し、申請に基づいた柔軟な育成支援を行っている</p> <p>学童クラブでは、子育てや就労などの個々の事情に配慮し、保護者への支援を行っている。育成は17時までの育成と集団降室、18時までの育成、延長時間育成として就労等必要に応じて19時までおよび朝8時から8時30分までの対応を行っている。このほか17時前の早退やお迎えも入会要件の範囲内で対応している。保護者から提出された育成時間申請書を元に育成を行い、急な変更にも対応している。年度途中で保護者や子どもの状況が変わることがあるため、職員は育成時間申請書を定期的に見直し、記載内容を確認して柔軟な支援体制を整えている。</p> <p>保護者会や親子交流会、参観、面談等を通じて保護者同士や職員との交流と信頼関係構築</p> <p>年2回実施する保護者会では工作や遊びの時間を設け、保護者同士の交流を図っている。また、子ども・保護者・職員が交流できる行事として、親子交流会を実施し、スポーツや遊びを通じて交流を深めている。ほかに、自由参観日を設けて学童クラブの普段の様子を知ってもらい機会を作り、保護者から意見や相談事が伝えやすい環境を整えることで、職員との信頼関係が深まるよう努めている。電話での情報共有や、お迎えの際に職員から子どもの様子を細やかに伝えることに加え、個人面談を実施し、保護者と職員が共通認識を得る取り組みを行っている。</p> <p>アプリと電話で出欠席や登降室の確認をして、保護者と協力して子どもの安全を確保</p> <p>学童クラブでは、保護者との連絡ツールとしてアプリと電話を活用している。急な出欠席連絡は毎日午前9時30分まではアプリで、それ以降は電話で対応している。電話での確認内容は電話記録ノートに記録している。保護者は子どもの登降室の時間をアプリで確認できるが、事前連絡と相違があった場合、職員はすみやかに保護者に確認を取っている。保護者、学校等に確認してもなお子どもの所在が不明な場合は、保護者や職員が自宅周辺での情報を確認したり探索をするなどして子どもの安全確保にむけて保護者と協力して取り組んでいる。</p>		

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 学童クラブの行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目9の講評			
<p>放課後子供教室との合同行事や地域交流、親子遠足等子どもに多様な体験を提供している</p> <p>併設されている放課後子供教室「あそびバ」とは日々の遊びや見守りを共同で行っており、ドッジビー大会、工作会など年間を通じて数回の合同行事も実施している。学校開放委員会や健全育成推進地区委員会等の学校施設を利用する団体が身近にあり、地域の子どもたちや大人と交流する機会を確保している。学童クラブの屋外活動として親子遠足を実施し、非日常的な体験を提供している。市主催の学童クラブドッジビー大会や児童館サッカー大会にも積極的に参加している。このように、学童クラブは子どもに多様な体験や交流ができる機会を提供している。</p> <p>職員は地域イベントに関わり、子どもと地域の大人との交流の機会を模索している</p> <p>職員は地区協議会のイベントや児童館まつり、防災フェスの運営等に関わり、学童クラブの存在や役割を地域の大人に理解してもらう努力をしている。これにより子どもたちが地域イベントに参加するきっかけを作り出している。また、地区協議会主催の高齢者向け「スマホサロン」に参加して、高齢者と交流する機会を設けている。近隣施設との交流事業を模索し、子どもの生活の幅を広げる努力もしている。今後、地域の人を招く取り組みの実施など、地域との連携を一層強化し、交流の機会を広げて、地域社会と子どものつながりを深めていくことが期待される。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	2-2-1	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している
タイトル①	中期経営計画の確実な目標達成に向けて取り組んでいる	
内容①	市の基準を遵守しつつ、法人独自の取り組みを盛り込んだ4つの柱による中期経営計画を立案し、魅力ある学童クラブの運営を目指している。外部コンサルタントの助言を受け、各地域に応じた単年度計画の作成と具体策の明確化を図り、確実な実行に向けて取り組んでいる。また、計画の進捗状況や達成度については、四半期ごとに確認と見直しを行い、次年度に向けた課題抽出を実施している。このプロセスを通じて、目標達成に向けた手順が整理され、確実な達成を目指している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-3	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル②	子どもひとり一人の状態把握を職員間で共有し子どもとの信頼関係を築くよう努めている	
内容②	職員は毎日、子どもの様子や変化を話し合い、ミーティングノートに詳細に記録して最新の子どもの情報を把握・共有し、育成に役立てている。また、子どもや保護者との会話を重視し、話を受け止め、丁寧に聞き取るよう心掛け、意向をくみ取るようにしている。気になる児童については個別の記録をつけ共有している。研修報告を通じて職員全体の能力向上にも努めている。育成目標は職員が確認できる場所に掲示され、子どもの状態に応じた目標を毎月確認し設定している。学童クラブは子どもとの信頼関係を築き、個別の成長と発達を支える努力をしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル③	コロナ禍後の地域社会との関わりを再考し、地域行事等の参加を積極的に行っている	
内容③	コロナ禍後、学童クラブは地域行事への参加を積極的に再開している。放課後子供教室との連携や、学校関係団体、地区協議会、市主催のイベントへの参加等地域の行事や交流活動を通じて、子どもたちは社会性やコミュニケーション能力を養い、保護者や地域の大人たちとの連携を通じて、安心感や信頼感を持つことができている。職員は地域イベントの運営にも関わり、学童クラブの存在を地域に広め、子どもの参加を促す努力をしている。このような取り組みを継続していくことは、子どもたちの多様な経験を促進し、発達への大きなプラスになると期待される。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	法人内児童部門の組織力向上に向けて、地域性を踏まえた高い水準のサービス提供に向けて取り組んでいる
	内容	年2回行われる学童クラブ全体会を開催し、事業の目的の確認を通じて共通認識の醸成を図るとともに、職員間のコミュニケーションや支援力の強化、標準化に向けた取り組みを進めている。この取り組みを通じて、法人の運営する各学童クラブのサービス提供は、標準以上の水準を保ちながらも、施設長等を中心とした職員全体の努力により、地域性を大切にされた運営が行われている。地域のニーズは今後も増加が予測されており、さらなるサービスの拡充と、地域ネットワークの一つの拠点として機能することを目指している。
2	タイトル	職員一人ひとりの気づきを生かしチームワークで子どもの育成を行っている
	内容	暫定員を受け入れ、3年生が少なく1、2年生中心の学童クラブとなり、安全に配慮し見守りながら育成している。育成室の広さなどが厳しい状況の中で、職員は日々話し合いを重ね、最良の生活環境を提供する努力をしている。職員同士のコミュニケーションが良好で、学年や環境に応じた月間目標を立て適切な声掛けを行い、歩幅をそろえた育成ができています。経験の長い職員のサポートもあり、入社したばかりの職員も安心して業務に取り組める環境が整っている。保護者からも信頼され、子どもにも寄り添った対応が評価されている。
3	タイトル	あそびバとの連携を通して子どもの発達や自立をさらに促している
	内容	放課後子供教室「あそびバ」と一体型で運営しており、職員は月1回の打ち合わせと毎日の確認で子どもたちの情報を共有し、連携して活動を見守り、より多くの視点で支援している。あそびバには高学年の児童も多く参加しており、幅広い異年齢交流の経験ができる。年4回の合同事業を開催しており、ポスターや職員の声掛けで参加を募り、子どもたちは自ら選択して参加し、自立を促している。また、各部屋での相互交流を通じて、学童クラブに在籍していない同級生とも遊ぶことができ、子どもたちにとってうれしい工夫となっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	将来的な職員の専門性やマネジメント力の向上を見越して、各業務における役割や担当の基準を設けるなどして育成を図ることに期待したい
	内容	法人が運営する学童クラブは市内に7か所あり、地域性と子どもの状況に応じた柔軟な運営が行われている。各学童クラブは主に法人本部の児童部門と施設長を中心に方針が決定され、配置される職員による業務手順等は標準化されている。一方で、業務の負担状況には各施設間で差異が見られるため、今後は通常業務における役割や担当に明確な基準を設けることで、より働きやすい職場となることが期待される。また、職員のマネジメント力にも注視し、その育成方法についても検討されることに期待したい。
2	タイトル	児童数の増加を踏まえ、学校や他の公共施設等を活用した安全な児童の活動場所の検討が行われることに期待したい
	内容	市内の学童クラブには多くの入会希望者があり、全体的に児童数の調整が行われているものの、今後、育成単位に応じた十分な建物面積が確保できない状況が近づいている。また、付随する設備(例:トイレの数)についても不足していることが職員から指摘されており、早急に対策を講じる必要があると感じている。公立施設としての基準を満たしながら、子どもの健全育成をさらに進めるため、柔軟な体制や企画力を活かした様々な取り組みを行い、法人の目指すさらなる安全・安心な学童クラブの運営が行われることに期待したい。
3	タイトル	子どもの遊びと安全管理方法の見直しを図り、豊かな遊びの提供が行われることを期待したい
	内容	学童クラブでは、子どもの年齢に応じた玩具を用意し、子どもの意見や気持ちを尊重した遊びの活動を実施している。ただし、けん玉やコマは安全上の問題から使用されていない。また、棚に収納されている玩具は、一目では中身がわかりにくく、十分な量が揃っているとは言えない。遊びは、多方面で子どもの成長や発達に良い影響を与える。法人は事故防止を最優先の目標として取り組んでおり、リスクアセスメントや職員の研修、環境整備、子どもへの教育など、遊びの安全管理の見直しを図ることで、安心して豊かな遊びの提供が行われることを期待したい。